



川西市立総合医療センター看護部長

南 幸栄さん

市立川西病院時代から32年にわたり市内の医療を支える。令和元年に認定看護管理者の資格を取得

川西市立総合医療センター総長

三輪 洋人さん

消化器内科専門医。兵庫医科大学消化器内科教授を経て、令和4年9月現職に着任。多くのテレビ番組に出演

川西市市長

越田 謙治郎

市議と県議各2期を経て、平成30年10月に市長初当選。令和4年10月に再選し、現在2期目

**市長** 患者さんと一番近いところにいる看護師や医療スタッフなどの目線からはいかがですか。  
**南看護部長（以下部長）** 9月1日に40人弱のコロナ陽性患者を含む129人の患者の移送を行いました。二つの旧病院の急性期の機能を止めず、診療と同時進行

**越田市長（以下市長）** 市立総合医療センター（以下センター）が昨年9月に開院しました。約4カ月間を振り返っていかがでしょうか。  
**三輪総長（以下総長）** 病院は普通、開院後すぐに患者さんでいっぱいにはなりません。良い評判があつてから、だんだんと患者さんが増えていくものですから。  
今回は市立川西病院と協立病院からの転院もありましたが、開院から2週間後にはほぼ満床。現在もフル稼働の状態です。  
何がどこにあるかとか、完全には分からない状態から始まりました。スタッフの情熱と一人一人の使命感でこまできました。

**市長** 患者さんと一番近いところにいる看護師や医療スタッフなどの目線からはいかがですか。  
**南看護部長（以下部長）** 9月1日に40人弱のコロナ陽性患者を含む129人の患者の移送を行いました。二つの旧病院の急性期の機能を止めず、診療と同時進行

**三輪総長（以下総長）** 市立総合医療センター（以下センター）が昨年9月に開院しました。約4カ月間を振り返っていかがでしょうか。  
**越田市長（以下市長）** 市立総合医療センター（以下センター）が昨年9月に開院しました。約4カ月間を振り返っていかがでしょうか。  
**三輪総長（以下総長）** 病院は普通、開院後すぐに患者さんでいっぱいにはなりません。良い評判があつてから、だんだんと患者さんが増えていくものですから。  
今回は市立川西病院と協立病院からの転院もありましたが、開院から2週間後にはほぼ満床。現在もフル稼働の状態です。  
何がどこにあるかとか、完全には分からない状態から始まりました。スタッフの情熱と一人一人の使命感でこまできました。

**市長** 移送の日は雨でしたよね。そんな中でも、皆さんがしっかりと準備し、大きな混乱なく無事に行っていたことに感謝しています。  
**三輪総長（以下総長）** 統合したことで医療の面ではどんな変化がありましたか。  
**市長** 各病院の特性は違うし、診療科も増えました。それでも、医療は標準化されているので、診療や手術については大きな戸惑いはなかったのではないのでしょうか。  
ただ二つの病院が一つになっただけではありません。それぞれの強みや経験を生か

**市長** 移送の日は雨でしたよね。そんな中でも、皆さんがしっかりと準備し、大きな混乱なく無事に行っていたことに感謝しています。  
**三輪総長（以下総長）** 統合したことで医療の面ではどんな変化がありましたか。  
**市長** 各病院の特性は違うし、診療科も増えました。それでも、医療は標準化されているので、診療や手術については大きな戸惑いはなかったのではないのでしょうか。  
ただ二つの病院が一つになっただけではありません。それぞれの強みや経験を生か

すことで相乗効果が生まれ、医療レベルが引き上がる。それこそが、このセンターができた意義だと考えています。  
**市長** 人口が減っている今、行政がまちづくりを行う際、まちの機能を集約させることは避けられない状況です。  
今回の病院の統合も同じで、病床数が減ったことは事実です。しかし広い目で見て、医療機能の集約と役割分担、連携によって質を高めるといふことが、この改革の意義だと考えます。  
**総長** その通りです。このセンターの第1の役割は、救急で市民の皆さんの命を守ることに。救急の受け入れ要請に、可能な限り対応しています。ただ、満床で受け入れベッドの確保が難しいこともあり、なかなか大変です。スタッフの努力で乗り切っていますね。  
市消防本部の救急搬送データを確認すると、9〜11月は、センター開院前の1〜8月に比べて、市外搬送率が4%低下し、搬送時間も約2分半短縮されています。急性期病院として、市民の皆さんの生活を支える存在になれていたら幸いです。

しながら移送するというのは、本当に大変でした。  
両病院の初めての共同作業。何度もシミュレーションを重ね、無事にやりきることができました。  
また、開院に備えて、2年前から両病院で多職種の人材交流を行っていました。統合したとき、速やかに医療体制を整えるためです。それぞれのやり方の違いなど、難しい部分はたくさんありますが、次々と治療が必要な患者さんがいらつしゃいますから。みんな必死で目の前のことに向き合っていますね。  
**市長** 移送の日は雨でしたよね。そんな中でも、皆さんがしっかりと準備し、大きな混乱なく無事に行っていたことに感謝しています。  
**三輪総長（以下総長）** 統合したことで医療の面ではどんな変化がありましたか。  
**市長** 各病院の特性は違うし、診療科も増えました。それでも、医療は標準化されているので、診療や手術については大きな戸惑いはなかったのではないのでしょうか。  
ただ二つの病院が一つになっただけではありません。それぞれの強みや経験を生か

すことで相乗効果が生まれ、医療レベルが引き上がる。それこそが、このセンターができた意義だと考えています。  
**市長** 人口が減っている今、行政がまちづくりを行う際、まちの機能を集約させることは避けられない状況です。  
今回の病院の統合も同じで、病床数が減ったことは事実です。しかし広い目で見て、医療機能の集約と役割分担、連携によって質を高めるといふことが、この改革の意義だと考えます。  
**総長** その通りです。このセンターの第1の役割は、救急で市民の皆さんの命を守ることに。救急の受け入れ要請に、可能な限り対応しています。ただ、満床で受け入れベッドの確保が難しいこともあり、なかなか大変です。スタッフの努力で乗り切っていますね。  
市消防本部の救急搬送データを確認すると、9〜11月は、センター開院前の1〜8月に比べて、市外搬送率が4%低下し、搬送時間も約2分半短縮されています。急性期病院として、市民の皆さんの生活を支える存在になれていたら幸いです。

# 川西の医療 今とこれから New Year Talk

新春鼎談

令和4年9月、市立川西病院と協立病院が統合し

市立総合医療センターが誕生しました

救命救急や、地域の医療機関との連携など

センターが川西の医療においてどのような役割を担っていくのか

三輪総長と南看護部長、越田市長の鼎談を通して皆さんにお伝えします



# 役割分担し地域一体で医療を支える センターの使命

急性期から回復期、慢性期など  
それぞれの機能を持つ医療機関との連携を強めていく

## 全室個室での治療

**市長** 入院した人から、個室は大変ありがたかったという声をよく聞きます。全室個室での看護というのは、いかがでしょうか。

**部長** 旧川西病院には大部屋と個室があり、症状に合わせて部屋を移動してもらうこともありました。環境が変わると、不安を感じる人も多かったです。個室だと退院まで移動する必要がなく、安心して過ごしていただけます。

**今回、センターの基本設計段階から、スタッフも参加し、看護と物流の動線を考慮した病棟にしました。**

**フロアの中央にスタッフフリーステーションを配置し、患者さんの近いところに私たちが常にいる。ナースコールで呼ばれてから行くのではなく、呼ばれる前に異変に気が付き駆け付けたい、という思いがあります。**

**総長** いわゆるQOL（クオリティオブライフ…生活の質）への意識は、日本全体で上がっていますからね。より良い療養環境の確保は、今後さらに求められていくことだ

と思っています。

**また、コロナ対応でも、全室個室は本当に役立っています。大部屋だと、クラスターの発生リスクがどうしても高まってしまいますから。**

**市長** コロナに限らず、インフルエンザなどの感染症にも強い病院ですね。

**部長** 本場にそうですね。あとは、患者さんのプライバシーの確保にもつながっています。

**市長** 大部屋は男女別にする必要があります、また症状によって一緒に部屋にできないな



市長  
越田 謙治郎



患者支援センター Patient Support Center

ど、ベッドコントロール上のデメリットがありますよね。全室個室であれば、それらの課題がクリアでき、受け入れ体制が整いやすくなります。

**ただし、全室個室化は事業費が増えます。本場に最適か、何度も議論と検証を重ねてきました。センターの構想段階から、全室個室で検討してくれた皆さんに感謝していますし、私自身も最終的に決断して良かったと改めて思います。**

## 人材が何よりも大切

**市長** 総長は、病院は設備も

センター内には、「患者支援センター」があります。患者さんが入院する際、医療や介護の面でサポートする機関です。それができてから、地域の病・医院はもちろん、介護施設などとの密な連携が可能になりました。

**センターでの治療が終わり、急性期を脱した患者さんには退院していただきます。その際は、一人一人の事情に合わせて、病・医院や介護施設、在宅などで安心して受けられるサービスを案内しています。**

**部長** 患者さんには、その

時々に必要な療養環境に移っていただくことが必要です。

**医療機関で役割分担し、地域全体で患者さんを支えています。それが公立病院としての、このセンターの使命だと思っています。結果的に患者さんご本人や家族、市民の皆さんのためになります。**

**総長** このセンターだけで全ての医療は完結しません。それを我々も繰り返し丁寧に説明して、ご理解いただきたいと思います。

**市長** そうですね。患者さんとしては、最新の設備がそろったセンターで、療養期間も含めて入院していただきたいというお気持ちは理解できます。

**しかしそうならば、本来センターでの治療を必要としている人へ、適切な医療が届かない恐れがある。やはり、医療資源には限りがあり、優先順位もあります。必要とする人に、必要な医療を提供していかねばいけません。**

**総長** おっしゃる通りです。センタースタッフ一同で、市民の皆さんの安心できる暮らしを支えられるよう、行政や医療機関などと協力し、医療体制を強めていきます。

には、帰属意識も大切です。総長もよくおっしゃっています。ですが、そのためには病院のブランド力が重要になってきます。

**総長** ここで働いているんだという誇りを持つことですね。

**部長** まずは救急対応で、市民の皆さんからの信頼や、医療機関からの評価を得ようと頑張っているところです。実績をつくれれば、認知度と信頼度が向上しますから。それをスタッフのやる気につなげていきたいですね。

## 地域医療の要となる

**市長** このセンターは行ってすぐに診てもらえる訳ではありませんよ。今までのように、初診から入院、緩和ケアまで行う病院とは異なります。他の医療機関との役割分担についてはどうお考えですか。

**総長** 効果的で適切な医療を届けるために、地域内外の医療連携は欠かせません。

**基本的には、まずかかりつけ医に相談していただき、紹介状を持ってセンターに来院していただいています。**



市立総合医療センター  
総長  
三輪 洋人さん



市立総合医療センター  
看護部長  
南 幸栄さん

## 講演 市立総合医療センターの方針を語る

問い合わせ 市立総合医療センター ☎0570(01)8199

1月21日(土) 午後1時半～3時半

場所 アステホール

「市立総合医療センターの心意気—市民をささえ、市民を支えられる病院を目指して」をテーマに、同センター総長が講演。定員は400人(先着順)。当日会場へ。会場には公共交通機関で来場してください。